

第110話 長崎の眼科医

中山町 歴史散策

寛政年間から文化年間（1789年～1817年）にかけて、村山郡下の若者が、仙台に出て医学を学びました。谷地の田原元純医師の子息である恭次郎は、仙台の著名な眼科医中目道珣に学び、修学後中目道珣の娘と結婚し帰郷しましたが、その技術の優れていることから酒田本間家の招きを受け酒田に転居。ここで生涯を終えています。その後、長崎村の出身で同じく仙台中目道珣に眼科を学んだ三沢休珣（旧姓 松木庄吉）は、谷地工藤小路に開業していますが、休珣に子がないため、長崎の松木家より太珣を迎え、やがて太珣は長崎に戻って眼科を開業しており、長崎は幕末に多くの医師を輩出した村となっています。また、長崎の眼科医に太田休讓家があります。太田家の菩提寺である満願寺の過去帳では、初代太田休讓は文久3年（1863年）の2月に亡くなっていますが、この医師は村山郡千手堂村大内清三郎の弟として生まれ、太田家に婿入りしています。初代休讓氏については、文政8年（1835年）江戸の赤松休説家より免許皆伝医事開業の書が贈られているところをみると当時25歳前後であったと考えられます。医院の開業は、現在の中山町役場の真向かいの場所、新堀川沿いに入院舎、住居があったもので、第5代太田辰男眼科医の代までここで開業しています。太田辰男医師は、優れた眼科医として名を知られ、特に外科手術には近郷に知られた名手でありましたが、平成2年10月に亡くなって「慈眼院教善仁阿広清居士」の戒名が贈られています。また、太田辰男医師の長男陽一氏は外科医、陽一氏の娘は眼科医と、脈々と医師の伝統が受け継がれています。

※参考 中山町史 中巻 第9章第4節 疫病の流行

町議会だより

4月7日、役場応接室にて、今後の町の健全な財政運営を求め、斎藤議長と堀川副議長が、全議員署名の「平成28年度中山町一般会計予算に対する要望書」を執行部に提出しました。要望書の内容は次のとおりです。



平成28年度中山町一般会計予算に対する要望書

平成28年度中山町一般会計予算について、経済情勢は景気の緩やかな回復はあるものの財政調整基金を取り崩した予算編成や平成30年度から返済が始まる中山中学校建設事業の起債償還計画を見ても、今後、町の財政は大変厳しくなることが懸念されます。また、平成28年度からスタートする「第5次中山町総合計画・後期5か年基本計画」や、人口減少対策として計画された「中山町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる大規模なプロジェクトや各種事業を推進し成功させるためには、各種プロジェクトにおける事業計画額等も明確にした中長期的な財政計画を立て実行すべきものと考えますが、現時点ではそれも不透明であり町の将来を考えると具体策の検討が急務であります。

よって、中山町議会の役割と責任を強く自覚し、適切な財政運営を監視すべく、健全な財政運営のもとで中山町の発展を進めるため、次の事項について強く要望いたします。

1. 今後のなかやま保育園の運営については、なかやま保育園運営検討委員会の答申を尊重するとともに、町の財政状況を十分に考慮した上でその受け皿となる体制づくりを新年度から進めること。ただし、上記を進める際は議会に対し十分な説明を行い、検討・協議した上で進めること。
2. 敬老会補助金対象者年齢の見直しは行わないこと。
3. 敬老祝い金における数え年100歳の祝い金の見直しは行わないこと。

「中山町スポーツ推進計画」を策定しました

スポーツは、青少年の体力向上をはじめ心身の健全な発達に大きな影響を与えます。また、健康の保持・増進に重要な役割を果たすとともに、人と人、地域と地域の交流を促し、地域の一体感を高めるといふ点で地域社会の再生という観点からも大きな可能性を持っています。



町スポーツ推進審議会から答申を受ける佐藤町長

国でも、こういったスポーツの果たす役割に注目し、平成24年にスポーツ基本計画を策定しており、地方自治体や学校、スポーツ団体など、スポーツに関する多様な主体が連携・協働してスポーツの推進に総合的・計画的に取り組んでいくことが定められています。

このような背景を踏まえ、中山町においても誰もがスポーツに親しむことができる機会と環境を整備し、生涯スポーツの推進を図るため、「中山町スポーツ推進計画」の策定について中山町スポーツ推進審議会に諮問したところ、平成28年3月、これに対する答申がありました。

これを受け、町では同年4月に「中山町スポーツ推進計画」を策定。この計画に基づき、スポーツに関して目指す目標を明確にするとともに、町民、地域、学校、行政などが共通の認識を持つことで、中山町のスポーツの効率化と充実を図っていきます。（内容は下記をご覧ください。）

【基本理念】

町民一人1スポーツで、スポーツがつなぐ人と人 ～スポーツで心豊かな人生と明るい中山町～

【基本目標と施策】

	基本目標	今後5年間に取り組む施策
「する」 スポーツ	1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	・スポーツイベントの実施 ・各スポーツ団体の活動充実推進 ・高齢者、障がい者のスポーツ活動の支援 ・競技スポーツの推進
	2 スポーツ環境の整備・検討	・スポーツ施設の整備・検討 ・利用しやすい施設サービスの検討
	3 子どものスポーツ推進	・子どもの体力向上・スポーツ活動への取り組み ・学校における部活動支援
「みる」 スポーツ	4 スポーツを応援する気運の醸成	・プロスポーツチーム等の地域密着支援 ・スポーツ大会開催情報の発信 ・東京オリンピック・パラリンピック情報の発信
	5 スポーツ指導者やスポーツボランティアの養成	・スポーツ指導者やスポーツボランティアの養成 ・東北楽天ゴールデンイーグルス中山町支援本部の事業推進による町民参加
「ささえる」 スポーツ	6 スポーツにおける企業、大学との連携	・企業からの支援策の検討 ・大学との連携・協働
	7 スポーツを通じた次世代の育成	・幼児期からスポーツに触れ合う機会の充実 ・トップスポーツと地域スポーツの好循環の創出
「つながる」 スポーツ	8 スポーツによる町の活性化	・スポーツツーリズムの推進（スポーツと観光の融合） ・スポーツ団体の連携

【目標値】

	平成27年9月アンケート	平成32年目標値
町民が週1回以上スポーツを行う割合	38%	50%
町や地区で開催するスポーツ・レクリエーション行事に参加する割合	23%	30%